

# 京都市 PTA 連絡協議会会長賞

## 「能から考える伝統文化の未来」

京都府立洛北高等学校附属中学校 3年

中馬千陽

今日では、日本文化の幾つものが無形文化遺産に登録されています。例えば、登録の際に話題となった和食を始め、歌舞伎、浄瑠璃などが挙げられます。能楽もその一つです。能楽は、長い歴史の中で、数多くの先人たちを魅了してきた芸能です。しかしながら、近年では見に行ったことのある人や、身近に感じている人が少ないように思います。私自身も少し前までは、内容が難しそう、理解できないのでは飽きてしまうかも、といったマイナスのイメージを持っていました。

先日、学校の体験学習で能について学ぶ機会がありました。そこで能というものがいかに奥深いかを知り、能に対して感じていた印象が変わりました。能といえは面をつけて音楽に合わせて舞うというイメージだったのが、そこに戦いや恋の深いドラマがあると知り、興味を持ちました。

演目が始まると、やはり台詞は聞き取れません。しかし、役者の力強さ、全身から感じる感情の表現の細やかさに惹きつけられ、目が離せませんでした。また、舞台を中心に漂う独特の緊張感に心が引き締まりました。そこで初めて、能ってこんなに面白いものだったと驚き、その魅力に気がつきました。

しかし、どれほど良さがあっても伝わらなければ意味がなくなってしまう。実際、見に行く機会がなく、ハードルの高さに敬遠してしまう人も多いことでしょう。それは、能にテレビやアニメに感じるエンターテインメント的な面白さを期待するからだと思います。確かに、能には、笑いやスリルの要素という意味での面白さは感じられないのかもしれませんが、しかし、私は能の魅力はそこにあるのではないと思っています。人間の強さ、弱さ、悲しさなどの本質をついた表現は誰の心にも響く内容ではないでしょうか。そして、学校でも習う古典作品や歴史的な出来事が主題になっていることが多く、自分の知っているシーンで主人公がどう思っていたのか知れるのはとても興味深い面白さがあります。

また、現代には心の休まる時間なく過ごしている人がたくさんいると思います。毎日時計を見て分刻みで行動したり、満員電車で通勤したり、人付き合いに疲れてしまったり。そんな中、能の鑑賞の中ではただ役者の動きに見とれて美しいと感じたり、主人公の思いを感じ取り自分と重ねてみると、自分の心と向き合う時間が取れると思います。台詞を詳しく理解するのは難しくても、装束や音色舞の幻想的な世界観に見とれるだけでも十分価値があるのではないのでしょうか。だから私は、この現代にこそ能は必要とされていると思うのです。

魅力を知らないうちに、いつのまにか途絶えてしまうのは本当に勿体無く感じます。私たちは普段、伝統文化に触れる機会があまりありません。私も体験学習という機会があって初めて興味を持つことができました。だからまずは、一人一人が、自分から敬遠するのではなく柔軟に受け止め、知ろうとすることが一番大切だと思います。

一方文化のほうもただ型通りに伝えてきただけではありません。時代に合わせどんどん変化してきたのです。近年では、魅力を伝える講座やサウンドエフェクトを使った新たな試みも行われています。そうして時代の変化に対応し長い間人々の心をつかんできました。

人工知能を使った機器や、新しいテクノロジーといった最先端のものに私たちは敏感に反応します。一方、古くからあるものにはそこまで興味を示さずにいます。それでは自分の視野を狭めてしまいかねません。新しいものは古くからの積み重ねの土台の上に存在します。新たな発展を目指すのも良いことですが、振り返ってみるのも同じくらい大切なことだと思います。

そして新しい時代に対応するには、日本人として、自分たちの国がどのような文化に支えられてきたのか知っておくことが重要だと思います。それは、世界には数え切れないほどの地域文化があり、お互いの文化を交流することで違った考えも生まれるからです。狭い世界にとらわれず、幅広い価値観で物事を見ることは、これからの時代では特に大切です。そのために、自国の文化について理解しておく必要があると考えます。それがグローバル化に対応するための第一歩となるのではないのでしょうか。

伝統文化は一度失われてしまうと、二度と生み出すことはできません。世代を超え受け継がれてきた文化がこれからも続いていくために、文化に対する再認識が必要だと思います。自分たちの生活がどれだけ文化に彩られてきたのか、その価値を認識していく必要を切実に感じます。